

ネットワーク

キャンパス内のセクハラ問題に対して、県内の学生や教員が声を上げ始めている。なぜ大学でセクハラが起るのか、なぜその問題が大学内で語られることがないのか、どうやって被害者を守るのか、誰だってセクハラの被害者や加害者になり得るのではないかと、大学生活に限らずさまざまな場所で自身や他人のジェンダーと向き合うにはどうした

らいいのか、など。このような声を形にして議論し、セクハラがはらむ暴力性について考える機会をつくりたいという思いから、『ジェンダラス・シンポジウム』キャンパスにおける性暴力を考える』の開催は決定された。

『ジェンダラス』とはメンバーの発話から生まれた造語。「ジェンダー」（「男らしさ」や「女らしさ」のような社会的・文化的な性）と「デンジャラス」

ス（危険な）を掛け合わせ、「私たちのジェンダーはデンジャラスになってはいないか？」という意味を含む。私たちのすぐ隣で、セクハラという性暴力を受けている人がいるかもしれない。私達自身が性暴力の加害者となっていることだってあるかも

13日(日)『ジェンダラス・シンポ』

キャンパスの性暴力を考える

い。事件として表出してもセクハラではない。心ない言動で嫌な思いをする人がいればそれはもう暴力なのだ。

沈黙するのではなく、その暴力というタブーに対して私たちは「OUT」と声を上げることができはる。このシンポジウムは、メディアで取り上げられる事件だけに固執するのではなく、私たち自身に起こっていることとしてセクハラを取り上げ、考えあうことを目的としてい

る。二部構成で、第一部は「学生が問う大学におけるセクシュアル・ハラスメント」として六人の学生がキャンパス内のセクハラや、それに対してどう対抗できるのかなどを話し合う。第二部は県内大学の大学教員や大学院修了生ら四人のパネリストが、いかに法廷から声を取り戻すことができるのかなどをフリーディスカッションで展開させていく。

学生やパネリストだけでなく会場の声を巻き込み、開かれた場にしていきたい。だからこそ学生や教員だけでなく、家庭や職場などさまざまな立場の方に参加してほしい。

シンポジウムは七月十三日(日)正午から午後三時半、久茂地公民館六階で。入場無料。駐車場が狭いため、なるべく公共交通機関をご利用ください。主催はセクハラを考えるチーム「OUT」と「合意してないプロジェクト」。問い合わせは電子メール out@okinawaforum.org (「OUT」事務局)